

付加体先端部に発達する黒色ゾーンの形成プロセスとメカニズムについて

—房総半島南部と南海付加体の比較から推測されること—

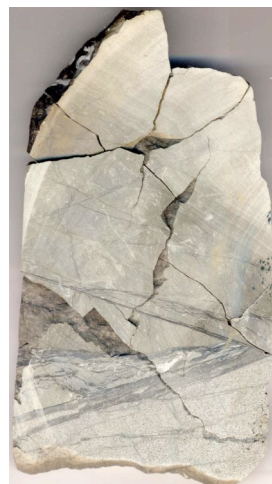
発表者 2：地球進化・地球変動科学 4年 道口陽子

房総半島南部に分布する三浦層群西岬層は、間隙率が高く、初生構造をよく保存していることなどから、浅いところで剥ぎ取られた未変成付加体と位置づけられている。一方、南海付加体は、フィリピン海プレートが西南日本弧に沈み込む際、プレートとともに沈み込めない表層の堆積物が、陸側プレートに押し付けられて形成された現世の付加体である。潜水艇を使用した調査により、南海付加体の天竜海底谷付近で観察される地質構造が、西岬層が分布する洲崎から西川名で観察される地質構造（地層の重複・断層・褶曲など）と似ていることがわかった。そこで本研究では、付加体初期に形成される構造の形成プロセスとメカニズムを明らかにするために、両地域で観察される構造の比較を行った。

今回、両地域で観察される黒色ゾーンについて研究を行った。房総半島南部では、地層に平行し変位を伴わないものやスラスト沿いのもの、地すべり面沿いに発達するものなど、様々な黒色ゾーンが観察され、これらは複数のステージで形成すると推定される。一方、YK-05 航海で採取された南海付加体試料中には、泥岩中に発達するものと岩相の境界を成す黒色ゾーンが観察された。本研究では、まずこれらの黒色層について薄片・SEM 観察、XRD 解析、間隙率測定を行い、今後の研究の方向性を探ることにした。



房総半島南部、西岬層中に観察される黒色ゾーン



南海付加体試料 (YK-05) 中に発達する黒色層

日時：1月30日（水） 17時より

発表者：石田直哉（鉱物学 4年）
佐藤雄大（地球変遷科学 4年）
新藤和安（惑星資源科学 5年）

座長：国友良樹（生物圏変遷科学 4年）
道口陽子（地球変動科学 4年）

佐藤 雄大（地球変遷科学 4年）
yudisato@geol.tsukuba.ac.jp
道口 陽子（地球変動科学 4年）
y-michi@geol.tsukuba.ac.jp
興野 純（鉱物学）
kyono@geol.tsukuba.ac.jp

連絡先